



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/23 (月)	▲ 200	▲ 2,300	▲ 2,500	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 1,500	国債買入 + 7,100	欧：ユーロ圏製造業・サービス業・総合PMI(6月)
6/24 (火)	トン	+ 4,000	+ 4,000				米：F R B 議長、下院金融委員会で証言
6/25 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (20年)	共通担保 ▲ 8,000		日：金融政策決定会合における主な意見 (6月16・17日分) ：田村日銀審議委員、 福島県金融経済懇談会で講演 米：F R B 議長、下院金融委員会で証言
6/26 (木)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				米：GDP (1Q) ：新規失業保険申請件数 (6月21日終了週)
6/27 (金)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				日：東京CPI (6月) 米：個人消費支出価格指数 (5月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,100億円増加の529兆5,300億円から始まった。その後、国債買入オペのスタートや貸出増加支援のエンド、国債大量償還等の要因により増減し、20日は529兆9,400億円 (速報) で越过了た。無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。ターム物は1W~3W物0.475%~0.61%のレンジ、1M~3M物0.55%~0.67%のレンジで出合が見られた。来週の予定は、国内では、25日に金融政策決定会合における主な意見 (6月16・17日分)、27日に東京CPI (6月) の公表。海外では24日~25日に米FRB議長、下院金融委員会・上院銀行委員会で証言、26日に米GDP (1Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.53 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.75
6M	0.65 ~ 0.80

<レポ>

足許GC取引は週初+0.48%近辺の出合いから始まり、金融政策決定会合 2 日目となる17日の取引でも水準に変化は見られなかった。以降も0.48%~0.49%の狭いレンジで推移し、週末には+0.50%近辺まで上昇した。SC取引は2年470~473回債、5年155~178回債、10年355~370、378回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.60

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆5,525億円で、週間償還額の9,840億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆7,309億円から、6月19日時点で24兆695億円に増加した。発行市場は、卸売業、鉱業、不動産、鉄鋼業、その他金融で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%台前半での出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%近辺での出合いが見られた。来週の償還額は3兆7,600億円となっている。発行市場は、発行体の四半期末に向けた有利子負債圧縮の動きから償還超となり、市場残高は減少する見込み。発行レートについては、今週に引き続き、1か月物では0.50%台前半での出合い、3か月物に関しては0.50%台後半から0.60%近辺と、横ばい圏での出合いを予想する。

<TDB>

19日の1Y (1313回債) の入札は、最高落札利回り0.5781% (前回債0.5783%)、平均落札利回り0.5671% (前回債0.5702%) となった。20日の3M (1314回債) の入札は、最高落札利回り0.4316% (前回債0.4468%)、平均落札利回り0.4207% (前回債0.4317%) となった。来週の入札は27日に3Mが予定されている。